

埼玉県内全域におけるイヌ・ネコに関する寄生虫保有状況（2022年）

埼玉県動物指導センター

1 はじめに

エキノкокクス *Echinococcus multilocularis* をはじめとする動物由来感染症対策の観点から、県内（政令市、中核市は除く）におけるイヌおよびネコの寄生虫侵淫状況を調査したので、2022年の結果について報告する。

2 検査材料および方法

2022年1月から12月までの期間に当センターに収容されたイヌ17頭、ネコ19頭の直腸便又は排泄便を採取し、寄生虫検査を実施した。寄生虫検査は直接薄層塗抹法、ホルマリン・エーテル法（MGL法）、シヨ糖遠心浮遊法および新鮮便の直接塗抹法を併用した。

3 結果

(1) イヌについて

イヌ全体（17検体）のうち、寄生虫の陽性数は2頭、陽性率は11.8%であった。虫卵は、糞線虫卵が1検体（5.9%）、マンソン裂頭条虫卵が1検体（5.9%）、鉤虫卵が1検体（5.9%）検出された（表1）。犬において複数の寄生虫類に重複感染した検体は1検体あり、その内訳はマンソン裂頭条虫、犬鉤虫の2種重複感染であった。

表1 イヌにおける糞便検査結果

		オス (n=8)	メス (n=9)	合計 (n=17)
条虫類	マンソン裂頭条虫	1 (12.5%)	0 (0.0%)	1 (5.9%)
線虫類	鉤虫	0 (0.0%)	1 (11.1%)	1 (5.9%)
	糞線虫	0 (0.0%)	1 (11.1%)	1 (5.9%)
陽性頭数		1 (12.5%)	1 (11.1%)	2 (11.8%)

※重複感染があるため虫卵検出数と陽性頭数の合計数は一致しない

(2) ネコについて

ネコ全体（19検体）のうち、寄生虫の陽性数は9検体、陽性率は47.4%であった。虫卵は、猫回虫卵が6検体（31.6%）、マンソン裂頭条虫卵が4検体（21.1%）、猫鉤虫卵が3検体（15.8%）、壺型吸虫卵が3検体（15.8%）、瓜実条虫卵が1検体（5.3%）、*Cystoisospora felis*が1検体（5.3%）検出された（表2）。また、ネコにおいて複数の寄生虫類に重複感染した検体は6検体あり、その内訳はマンソン裂頭条虫、猫鉤虫の重複感染、壺型吸虫、猫回虫の重複感染、マンソン裂頭条虫、猫回虫の重複感染、マンソン裂頭条虫、猫回虫、壺型吸虫の3種重複感染、猫回虫、猫鉤虫、瓜実条虫の3種重複感染であった。

表2 ネコにおける糞便検査結果

		オス (n=8)	メス (n=11)	合計 (n=19)
吸虫類	壺型吸虫	1 (12.5%)	2 (18.1%)	3 (15.8%)
原虫類	<i>Cystoisospora felis</i>	0 (0%)	1 (9.1%)	1 (5.3%)
条虫類	瓜実条虫	1 (12.5%)	0 (0%)	1 (5.3%)
	マンソン裂頭条虫	1 (12.5%)	3 (27.3%)	4 (21.1%)
線虫類	猫回虫	2 (25%)	4 (36.4%)	6 (31.6%)
	猫鉤虫	1 (12.5%)	2 (18.1%)	3 (15.8%)
陽性頭数		2 (25%)	7 (63.6%)	9 (47.4%)

※重複感染があるため虫卵検出数と陽性頭数の合計数は一致しない

4 まとめ

調査は、エキノкокクスの本県への侵入に関する疫学調査の一環として実施している。エキノкокクスは検出されていないが、様々な寄生虫類の感染が明らかとなり、ヒトに感染する動物由来感染症の原因となるものも確認された。当センターでは寄生虫侵淫調査を継続し、ホームページ掲載等で情報発信を行い、県民への動物由来感染症予防の普及、啓発に努めていきたい。